

(1) 福岡市立中学校における標準服のあり方検討について

経緯・背景

市立中学校の標準服は、約70年前から採用されているが、気温の上昇、国際化、性的マイノリティなど、近年の社会的な課題や変化への対応が難しく、学校では標準服の見直しを求める声が高まってきた。

そこで、生徒誰もが快適に学校生活を送ることができるよう、新たな標準服の導入や、統一した標準服にとられない服装の自由化も視野に入れた標準服のあり方について検討することになった。

経過

- 有識者による検討委員会
H30.6～R1.5（全8回開催）
標準服に求められる役割や機能、配慮事項等について協議し、新たな標準服のデザインを決定
- 生徒による検討委員会
H31.1～H31.3（全3回開催）
サンプル試着、生徒の声集約・報告
ブレザータイプ採用校との意見交換
- いじめゼロサミットで披露 R1.8
- 採用状況集約 R1.9
65/69校で採用！！



生徒による検討委員会



いじめゼロサミット

今後

- 令和元年12月 販売店での採寸開始
- 令和2年4月 中学校入学式
(**新入生が新たな標準服を着用**)

ネクタイ・リボン博多伝統の献上柄

名札出し入れ可（プラバシ対応）

ボタンデザインに市章を使用

袖後部に反射材使用で安全配慮



いよいよ学校デビュー！！



スラックスタイプ スカート・キュロットタイプ

(2) SNS（LINE）を活用した教育相談

経緯・背景

若年層へのスマートフォンの普及に伴い、コミュニケーション手段もSNSが中心となっている現状を踏まえ、LINEを活用し、子どもたちが気軽に相談できる体制を整えた。深刻な悩みを持つ児童生徒の早期発見、適切かつ円滑な対応につなげていく。

経過

- R1.7 福岡市立学校全児童生徒に相談カードを配布
- R1.8.19 「福岡市子どもLINE相談」開始
【R1.10.1現在】友だち登録者数849人、相談受付件数217件

今後

- 令和2年3月24日までLINE相談を継続し、効果を検証。
今後の教育相談体制構築事業に活かしていく。



相談画面

(3) 小中学校における医療的ケア支援

経緯・背景

人工呼吸器等の高度な医療的ケアを必要とする児童生徒であっても通学可能となる医療技術の進歩及び医療的ケア児の増加。また、国（文部科学省）は小中学校を含む全ての学校における医療的ケアの考え方等を整理し、支援する方向性を示している。

経過

- H31.4 小学校6校に学校看護師6名を配置し、8名の児童に医療的ケアを実施

今後

- 今後増加すると見込まれる医療的ケア児に対応し、学校看護師の安定した雇用と配置を行う。
- 有識者の意見を伺いながら医療的ケアの新たな体制及び制度を整備していく。
 - ・人工呼吸器を使用する等の高度な医療的ケアへの対応
 - ・校外学習における医療的ケアの実施等

【保護者の声】

休み時間に母が導尿に行くと子どもが甘えてきたり、頼ってきたりしましたが、看護師さんのおかげでそれがなくなり精神的自立にも役立っています。

すごく安心して毎を送り出すことができている。子どもも以前は不安に思っていたのですが、それがなくなり安心して保健室に通っています。